

プーチン大統領のリーダーシップ

荒野喆也

近年、世界のどこかでのテロや小競り合いは珍しくないが、今回のように、大国が一方的に他国を侵略するということには多くの人が驚いた。しかし調べてみると、プーチンがリーダになってからのロシアの行動は、同様なことの繰り返しであった。それは、ソビエト連邦が解体されて以降のプーチンが国政に関与することになってからのこの三十年間を見てもわかる。それらは、一九九四年のチェチェン戦争、二〇〇八年のグルジア戦争、二〇一四年のクリミア戦争と続き、今回のウクライナ戦争である。

第二次世界大戦が一九四五年に終了し、米国を中心とする自由主義国家群とロシアを中心としたソビエト連邦の共産主義国家群との間の冷戦時代が半世紀ほど続いた。その後、ソ連邦が解体したあとのロシアと独立国家共同体CISが存続した。そしてロシアがプーチンに率いられてから、大国ロシアの近隣国への度重なる侵略が続く。あたかも以前のソ連邦への回帰と第二次冷戦を目指しているかのようである。

このようなロシアの動きが継続できた理由は、プーチンというリーダの強力な個性と自国の豊富なエネルギー資源だといわれている。

プーチン大統領を育んだ環境は、世界大戦でドイツに九〇〇日の長期間占領され、破壊しつくされたレーニングラードで生まれ育ったこと。それに東ドイツの崩壊とソ連邦の崩壊という国家の崩壊を二回も体験していることである。そして、「強い国家」を作ることがすべてであるという信念が形成されたと考えられる。彼は、少年時代からの希望であったソ連国家保安委員会KGBに入る。そして、次に政治家となり一九九〇年エリツィンに見いだされ首相・大統領へとなって以降、長期政権の座につきスターリン時代を彷彿させている。

プーチンの得意なスポーツは柔道であることは有名だが、始めたのは十一歳の時からで、現在は国際柔道連盟資格で八段の資格を得ている。彼の柔道に対する信念は「柔道はスポーツではなく哲学である」とのことだ。